

北九州医療・介護連携プロジェクト

「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）

令和6年3月

1. 調査目的

- 北九州医療・介護連携プロジェクトの中心的な取り組みである「とびうめ@きたきゅう」や「医療・介護連携ルール」の運用状況等を把握するための調査を、前年度に引き続き実施。

2. 調査概要

- 病院からケアマネ事業所へ、利用者が入院された際に連絡が来ているか（「医療・介護連携ルール」が運用されているか）について、調査票を市内の全ケアマネ事業所に送付し、回答状況を集計。

3. 調査期間

- 令和5年11月27日（月）から同年12月22日（金） ※約1か月間

4. 回答率

- 43.1%（160/371事業所）※小規模多機能型居宅介護を含む
《昨年度 41.9%（158/377事業所）》

5. 調査期間中の入院件数

- 536件（救急入院・当日入院・その他入院）
《昨年度 500件》

○結果要点

【病院→ケアマネ事業所への入院連絡】

- ① 入院3日以内に連絡があった **274/536件 (51.1%)** 《昨年度 51.2%》
- ② 入院4日以降に連絡があった 23/536件 (4.3%) 《昨年度 4.4%》
- ③ 連絡がなかった (家族等から連絡あり) 239/536件 (44.6%) 《昨年度 44.4%》

【ケアマネ事業所→病院への情報提供】 <病院からの入院連絡あり (上記①+②) を集計>

- ① 3日以内に情報提供をした **217/297件 (73.1%)** 《昨年度 78.8%》
- ② 4日以降に情報提供をした 11/297件 (3.7%) 《昨年度 2.2%》
- ③ 情報提供していない 69/297件 (23.2%) 《昨年度 19.1%》

* 参考：全ての入院 (536件) における「**ケアマネ事業所→病院への情報提供**」の割合

		全体 (N=536件)	左のうち、「病院からの連絡」が	
			ありの場合 (N=297件)	なしの場合 (N=239件)
全入院種別		情報提供をした	70.7%(379件)	76.8% (228件) ← 13.6pt差 → 63.2% (151件)
	上記内訳	入院を知って3日以内	63.4%(340件)	73.1%(217件)
		入院を知って4日以降	7.3%(39件)	3.7%(11件)
		情報提供なし	29.3%(157件)	23.2%(69件)

➔ 病院からケアマネ事業所への「**入院連絡あり**」のほうが
 ケアマネ事業所から病院に「**情報提供をした**」割合が高くなっている

ケアマネ事業所から見て「誰から利用者入院の連絡があったか」

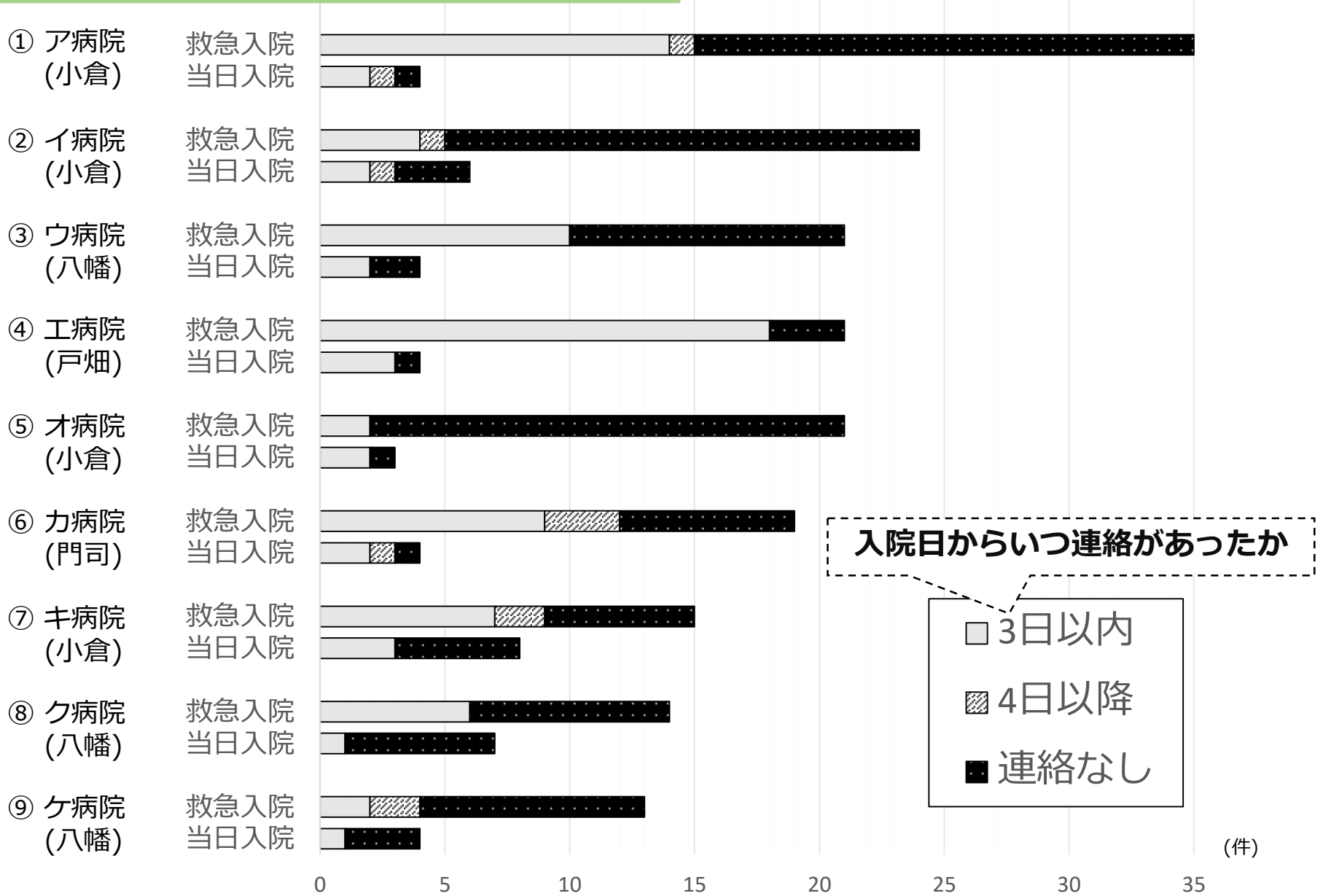
連絡をくれた相手方			連絡があった割合（件数）	
病院	家族	その他		
医療・介護連携ルール上のルート	○	○	○	3.7%(20/536件)
	○	○		27.2%(146/536件)
	○		○	8.8%(47/536件)
	○			15.7%(84/536件)
		○	○	3.5%(19/536件)
		○		26.7%(143/536件)
			○	14.4%(77/536件)
55.4%(297/536件)	61.2%(328/536件)	30.4%(163/536件)		
{ 55.6%(278/500件)	61.4%(307/500件)	26.8%(134/500件)	←昨年度（参考）	

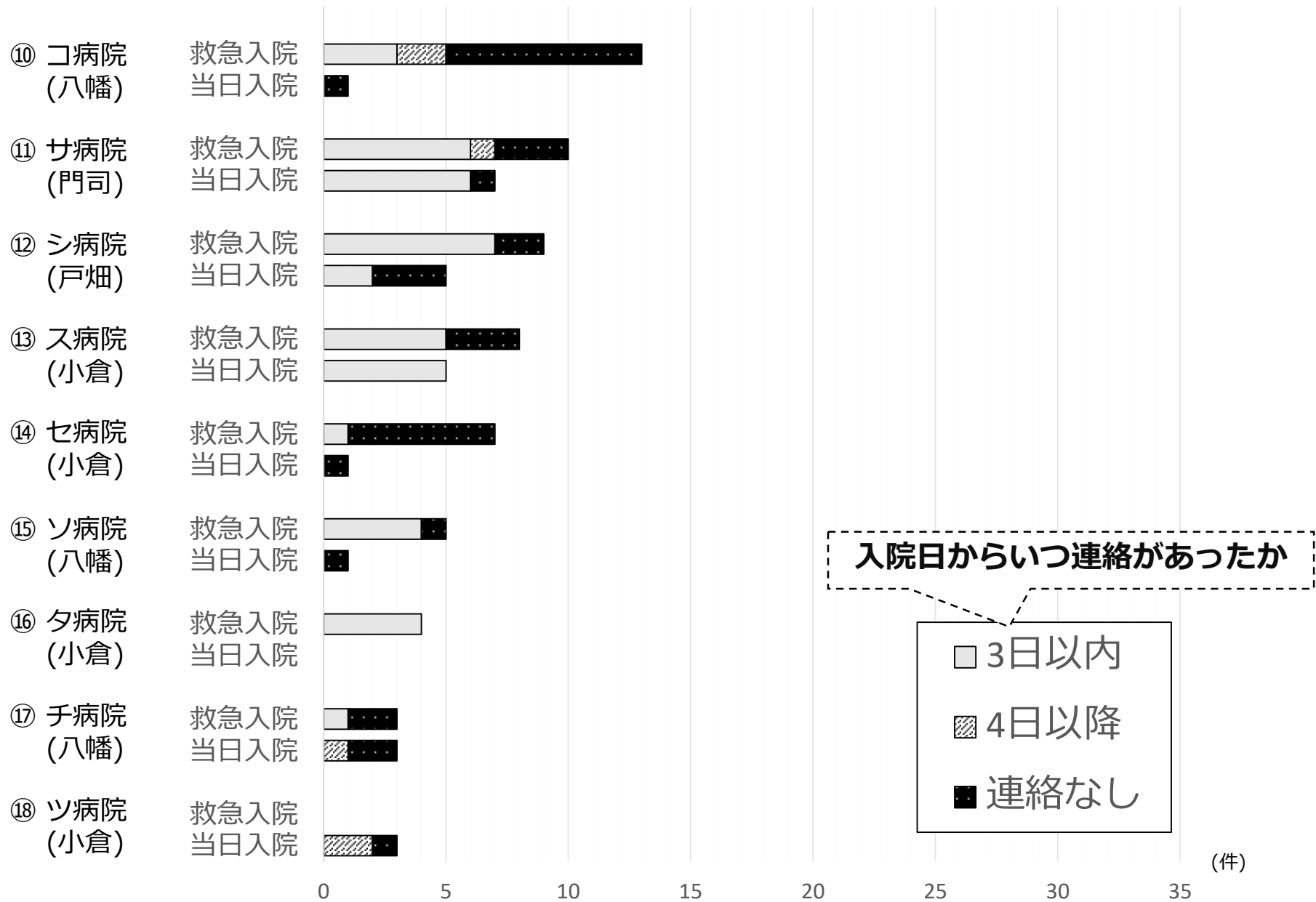
最も多い

- **病院⇒家族⇒ケアマネ事業所** の入院連絡ルートは、昨年度に続き最も多い
- しかし、医療・介護連携ルール上の入院連絡ルート **病院⇒ケアマネ事業所** はケアマネ事業所からの情報提供率の向上にもつながっており、重要なルートと言える
- ➔ プロジェクトで策定した『医療・介護連携ルール』のさらなる徹底が必要

病院からケアマネ事業所への 「利用者が入院しました」の連絡

※R5.11.27~R5.12.22の入院者（救急入院、当日入院）
について、市内のケアマネ事業所に調査したもの





それぞれの病院内でも
ケアマネ事業所への入院連絡の対応に差

○まとめ（ケアマネ事業所調査）

- 『医療・介護連携ルール』の運用状況については、概ね**前回と同様**の結果。
 - ・ 病院からケアマネ事業所への入院3日以内の連絡
⇒ルールどおり連絡があったのは**5割**
 - ・ ケアマネ事業所から病院への連絡後3日以内の情報提供
⇒ルールどおり情報提供をしたのは**7割**
- ケアマネ事業所に利用者の**入院の連絡をくれた相手方で、最も多かったのは、**前回に続き**「家族」の61.2%**で、**「病院」は55.4%**であった。
- それぞれの病院内でも、ケアマネ事業所への入院連絡の対応に差。
- 病院からケアマネ事業所に入院連絡をしない場合に比べ、**病院からケアマネ事業所に直接連絡**した場合の方が、**ケアマネ事業所からの情報提供率の向上（+13.6pt）**につながっている。
- さらなる医療と介護の連携を進めるためにも、**プロジェクトで策定した『医療・介護連携ルール』を改めて周知・徹底**する必要がある。

<参考>

○病院 → ケアマネ事業所への利用者入院の連絡の有無と日数 (病院からの連絡日 - 入院日)

病院からの連絡の有無と日数	全入院種別 (N=536件)	内 訳		
		救急入院 (N=275件)	外来受診後の 当日入院 (N=121件)	その他の入院 (N=140件)
あり	55.4%(297件)	50.9%(140件)	60.3%(73件)	60.0%(84件)
上記内訳	入院3日以内	46.2%(127件)	54.5%(66件)	57.9%(81件)
	入院4日以降	4.7%(13件)	5.8%(7件)	2.1%(3件)
なし	44.6%(239件)	49.1%(135件)	39.7%(48件)	40.0%(56件)
病院から連絡がなかった (病院以外から連絡があった)				

○上記「あり」のうち、ケアマネ事業所 → 病院への情報提供の有無と日数 (情報提供日 - 病院からの連絡日)

病院からの連絡後の 病院への情報提供の有無と日数	全入院種別 (N=297件)	内 訳		
		救急入院 (N=140件)	外来受診後の 当日入院 (N=73件)	その他の入院 (N=84件)
情報提供をおこなった	76.8%(228件)	76.4%(107件)	79.5%(58件)	75.0%(63件)
上記内訳	連絡後3日以内	73.6%(103件)	78.1%(57件)	67.9%(57件)
	連絡後4日以降	2.9%(4件)	1.4%(1件)	7.1%(6件)
情報提供なし	23.2%(69件)	23.6%(33件)	20.5%(15件)	25.0%(21件)

<「とびうめ@きたきゅう」について>

- 当利用者全員登録しています。
- 基本的に全員に登録をすすめている。介護者も登録ができることを喜ばれた。
- とびうめ@きたきゅうの説明を行う際に、以前、登録をしてスムーズに連携が取れた例をお伝えすることができている。
- 介護認定の際にとびうめ@きたきゅう申し込みができるのはとても画期的です。欲を言えばもう一枚説明用紙を4枚目に入れてくれるとケアマネから説明しやすいです。
- 本人へとびうめのカードが届いているか分かりにくい。送付書類の中に担当ケアマネがいる場合はご連絡ください等の文面があると本人・家族からの連絡で把握しやすいと思う。緊急時に持参してくださいとしておけば、ケアマネも次のステップの話をしやすいと思う。
- ケアマネ、介護事業者側のメリットがもう少し感じられればと思います。病院からの情報が得られる、見ることができるなど。
- とびうめの登録は医療の方ですすめてほしい。今のところケアマネにメリットがない。病院はとびうめ@きたきゅうでケアマネを把握してるの？
- 救急搬送時にとびうめ@きたきゅうを活用されていないことが多いと感じている。
- 某病院から利用者様が入院した、と連絡がありました。普段やりとりをしているSWとかではなく、病院の受付？のような方のTELでした。とても不愛想で上から目線で一方的に話をされ、この制度のこともあまりわかっていませんでした。できればよくわかっている方との連携がいいと思います。

<医療・介護連携ルールについて>

- どの事例も入院されて間もなく病院から本人の状態の連絡があり、良かった。
- 皆様のおかげで、普段の連携は以前に比べ大変円滑になった印象です。ありがとうございます。
- 病院から入院時の連絡はほとんどありません。ご家族からの入院連絡を受けています。入院情報提供書・サービス計画書①～③票を送付しています。その後、ソーシャルの方と連携を図り、退院時には看護要約・リハビリテーション要約・薬情報をいただいています。退院前カンファレンスに参加の場合もあります。
- 最近のご家族により入院の連絡があっていますが、北九州市が発行している入院時の窓口ガイドを利用し電話を入れています。感謝を言うてくださる病院もあれば、明らかに面倒くさそうに対応する病院もある。情報提供しているにもかかわらず内容を確認されていないのか、問い合わせをしてこられるケースもあります。
- 医療関係に周知されていない。個人病院や北九州市以外の病院などからの連絡は少ないように思います。
- とびうめを扱っている病院からの連絡はほぼ全くないことが多い。
- CMから病院へ情報提供はするのに、病院にTELしても、CMには内容を教えてくれない。CMも守秘義務等、厳しい研修を受けているのに、平等、対等な立場でないのが現状である。

<病院窓口ガイドについて>

- ・ 病院窓口ガイドで連携先がすぐに分かり便利です。
- ・ 病院窓口ガイドは活用させていただいております。
- ・ 病院窓口ガイドは入院時の情報提供の際、確認を行い対応するようにしている。対応窓口等について戸惑わずに済むので良い。すみやかに情報提供できるようになったと思う。
- ・ 病院窓口ガイドはとても助かり活用しております。ただ、病院内で共有できていないのか、窓口で情報提供を持っていても、理解していない職員がおり、回されることもあります。病院内部でも共有してもらえると助かります（病院内部のことで、すみません）。市の管轄ではないのですが、北九州市近郊（直方・中間）辺りぐらいまでの情報があると、大変うれしいです。

<その他>

- ・ 透析情報、HOTの人の情報、人工呼吸器の人の情報など全住民の情報を事前に登録していれば、災害時どこの人をどの病院に誰が連れていくかまで迅速に対応できるかなと思いました。
- ・ 情報のやりとりが目的ではなく在宅の高齢者と施設等介護者へのメリット・良い効果を目指していただくと良い。情報共有した、連携したで終わらないように。施設生活の高齢者も同様にこの取り組みで退院後もよい状況で施設で暮らせるようになると良い。

○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど①

<良くなった点>

- ・ 連絡することが当たり前になってきて入院していることを知らなかったということが減った（なくなってきた）と感じています。助かっています。
- ・ 連携が図りやすくなりました。情報をどこに送ったらいいか、どこに持参すればいいか等聞きやすくなりました。
- ・ ほとんどの病院が、連携シートをFAX後の連絡に速やかに対応して下さり退院時にサマリー等受け取ることができ、在宅生活支援に活かすことが出来ている。
- ・ 入院すれば病院側からの連絡はよく来るようになってきている。
- ・ 急性期病院とのやりとりが随分（以前と比べて）やりやすくなった。在宅で暮らしている要介護高齢者に対する理解が少しずつではあるが深まってきている感じがある。病院の体質（？）によりまだまだ温度差はある。
- ・ どの病院も連携室の動きがシステムとして稼働してきた印象でありがたい。助かっている。開業医の先生も、話を聞いたり助言を受けやすくなった。
- ・ 医療連携室を通じて、入院の状況や退院日を事前に連絡してもらえるようになった。
- ・ ソーシャルより医者との連携が図りやすくなった。
- ・ ケアマネから病院への連絡を入れやすくなった。
- ・ 以前に比べて病院から入院の連絡が多くなったと思います。病院側も介護との連携を積極的にとってくれるようになったと思います。

○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど②

<お困りごと>

- 病院によって入院連絡をくださる所とそうでない所と別れる。
- CMに連絡が入らない病院がある（情報を求めている）。どこの誰に連絡すれば良いかわからないという病院も過去にありました。
- 急性期の病院からの報告が少ないと感じている。
- 利用者が入院しても退院しても、病院から一切連絡がないとき（本人から後日あり）。
- 独居の場合、救急車で搬送時に入院となれば必ず連絡をすることを周知して欲しい。
- 退院や転院の際はケアマネ事業所に連絡をくださいと再三伝えても、電話がない病院がある。ケアマネジャーへの情報提供を「個人情報保護」ということで電話で連携できない場面がある。病名などは教えられないことは認識していますが、退院時期や状態の情報が得られない。電話で済む内容も、看護師が病院に何度も来てくださと言われる病院があった。一方でこまめに連絡くれる病院は増えた。連携を意識してくれているのは助かる。
- 救急を扱う病院とは連絡してもなかなか連携がとりづらい。
- 利用者様が入院しても病院から連絡を受けることは少ないです。CMから連絡を取っても担当が決まっておらず情報の共有がうまくいかない時もありました。
- 入院した時の連絡や入院中の情報などとりにくい病院がある。
- 居宅介護支援事業所が情報等一式送りますが、必ずサマリーをいただきたいことを伝えても全くいただけません。また、入院連絡もなく、病棟変更についても連絡なく、ケアマネ側から連絡しても家族にしか伝えませんとの返答。退院の時にしか連絡いただけない状況です。以前より連携は悪化したように感じます。

○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど③

<お困りごと（つづき）>

- 担当利用者が入院し、病院に本人の状態確認等を行った際、利用者（患者）の情報を教えてもらえない点は困る（状態が不明なまま）。
- 医療側は、CMや介護を見下していると思います。こちらの情報は欲しがるのに、病院の情報をCMに教えないのはおかしいです。連携ができていない。医療はCMをいいように利用している。
- ケアマネジャーが情報提供する際、FAXを希望する病院が多く、連携室や病棟に入院中の連絡をしても状況を聞かせていただけないことが近頃多い印象です。サマリーや退院日の決定なども知らせていただけないこともあり、サービス調整等に困ることがあります。
- 某病院に利用者が入院した際、その方にソーシャルさんが介入せず、入院中の状態も退院する日にちもケアマネジャーには連絡しないとされた。自立型の施設に入所していたため、施設に戻って来られるかどうか不明で、大変困りました。
- 入院中の状況と自宅での状況の認識に相違があることもある。環境の変化なども関係していると思うが、在宅でその人が生活できるようにするための情報共有をもっとはかっていけたらと思う。答えは出ないのですが、お互いに書面だけではなく連携が出来れば、とは思っている。ただ、短期間での入退院が増えていたり、同じ時期に入退院が重なることも多く、難しい部分もあると考える。
- 主治医との連携（情報のやりとり）について、基幹病院になると難しく感じる。情報を送るといふことも失礼かと思うし、持参することで病院職員の方の対応の手間をとってしまうのも気が引ける。

<お困りごと（つづき）>

- ・ 大きな病院やリハビリ病院との連携について、入退院などの際に、病院から連絡があり折り返し連絡をすると代表電話につながり、かなりの時間待たされることがある。やっと連絡者につながったかと思えば、電話が切れてしまったりと困ることがある。直通電話の整備と窓口の一本化、情報の共有に気を配っていただければ、もっと円滑に事が進むのではないのでしょうか。

○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど⑤

<その他>

- ・ 某病院について、入院されていない時点で在宅サマリーをくださいと電話連絡があり、個人情報なので入院後に情報を送付することを伝えた。
- ・ かかりつけ医の件で、本人病院受診ができるのに訪問診療をしている。訪問看護の時間に合わせて訪問しています。薬の処方も事業所の訴えも対応なし。大きな病院も本人の状態についてもあまり対応なく、検査のみで特に指示もなし。5、6月と毎週意識がなくなり吐くなどありましたが、病院に連絡してもハテナが多かったです。
- ・ 入院期間の短縮に伴い、SWの皆様の負担が大きくなり、以前よりも事務的にならざるを得ないのではないのでしょうか。
- ・ 特に困りごとはありません。医療と介護の連携をしやすくなるよう改善策等検討いただき、ありがとうございます。
- ・ 「連携窓口連絡先一覧表 小倉南区・北区」を活用して、かかりつけ医と連携を図るツールで助かっています。H27作成以降、更新されていないので、最新にしていただけると助かります。
- ・ 担当が八幡西区に多いため、市外某病院に搬送される利用者が多いですが、北九州以外でも連携が取れたらと感じます。